

「教育課程論」における「本時の展開」

鈴木 そよ子

はじめに

教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目等」の一つである「教育課程論」では、授業ガイダンスで「コア・カリキュラム」を踏まえた本学の共通シラバスを紹介し、これにもとづく担当教員のシラバス（以下「授業者シラバス」という。）を配付して、全14回の授業構成を説明している。共通シラバスは神奈川大学のサイト上で共有されている。

本稿では、授業者シラバスと授業内容を検討対象としている。これらを対象とする目的は、科目間の重複を確認するための資料提供にある。「教育課程論」の内容には、「教育原論」「教育と社会」「教育心理学」「教職論」「教育方法とICT活用」「道德教育論」「特別活動論」「教科教育法Ⅰ～Ⅳ」と重なる内容が含まれている。

授業者シラバスと授業内容レベルで、他の科目と突き合わせてみることであれば、重なりを避けて当該科目の特徴的な内容に時間を割いたり、同じ内容を扱う場合も力点の置き方を変えたりすることが可能になる。他科目での扱い方を考慮しなければ一から説明することになってしまう。受講者から見ると、同じような内容を複数の科目で繰り返し聞くことに止まってしまう。それは、近年の「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目数増加にもかかわらず、全科目を合わせた教材の広がりや深さは、以前とそれほど変わっていないという状況にもつながる。

現状を確認し、調整するための第一歩として、「教育課程論」の授業者シラバスと第2回から第8回の授業内容を共有する。授業内容を示す方法として、小学校から高校までの学習指導案になぞらえて、「本時の展開」と称して表を作成した。

Ⅰ 「教育課程論」の授業構成

「教育課程論」の第1回はガイダンス、第2～9回は講義、第10・11回はパソコン教室での学習指導案作成、第12・13回¹は発表という構成だが、第3～9回は講義と並行してグループ活動を取り入れている。そして、これらのグループ活動の内容はワークシートに記録していき、第10・11回の作業の下準備となっている。2022年度の第12・13回には、全員がグループワーク評価シートを用いて、グループ発表を評価する体験も行った。

¹ 2022年度は、授業期間内での試験に変更されたため、第12・13回が発表、14回は試験へと変更になった。

II 「教育課程論」の授業者シラバス

2022年度前期「教育課程論」授業者シラバス				
回		火曜MMC 木曜SHC の日付	主題	内容
2022. 4. 7/12 鈴木そよ子				
回	火曜MMC 木曜SHC の日付	主題	内容	ねらい(目標)・O学習活動・持参するもの
1	4/7(木) 4/12(火)	ガイダンス	<ol style="list-style-type: none"> YC, MMC, SHC共通シラバス 授業者シラバス 学習指導案フォーマット 教員採用試験の状況 自己紹介 購入教科書 <p>※資料提示方法・・・WebClass掲載。予習の一環としてプリントアウトして持参する。 ※購入書・プリントアウト・画面閲覧資料・・・授業の流れに即して準備</p> <p>* 中学校教科書 (購入) * 学習指導要領 (最初から総則の終わりまで+自分の教科のページ) * 学習指導要領解説 (自分の選んだ単元に関する説明のページ) * 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』</p>	<ol style="list-style-type: none"> 授業の目標と全体像を理解する。 鈴木クラスの具体的授業構成を理解する。 学習指導案フォーマットの使い方を知る。 都道府県ごとの教員採用の状況を知る。 所属、氏名、キャンパスのお気に入りスポット 教科ごとの購入教科書を確認する。
2	4/14(木) 4/19(火)	教育課程の 概念と構造	<ol style="list-style-type: none"> 教育課程の基本概念 カリキュラムの類型 免許取得希望教科(複数ある場合は教育実習に出る教科を選ぶ) 	<ol style="list-style-type: none"> 教育課程に関する基本的用語、概念を理解する。 カリキュラムの類型について理解する。 <p>① これまで経験してきた教育課程と照らし合わせて、用語を使えるようにし、種類を把握する。 ② WebClassで(免許取得希望教科)に答える。</p>
3	4/21(木) 4/26(火)	日本における 教育課程行政	<ol style="list-style-type: none"> 現在の教育課程行政の構造 教育課程の法体系 教育の目的と教育課程の関係 授業時数と教育課程の基準 学習指導要領と教科書 教科書検定制度と採択のしくみ グループ分け 	<ol style="list-style-type: none"> 日本における教育課程行政の1～6の内容について理解する。 <p>① 前回のレポートにもとづいて、グループの分け方について決める。 ② アンケートに答える。</p>
4	4/28(木) 5/10(火)	教育課程の 歴史的変遷	<ol style="list-style-type: none"> 歴史的視点 明治期、大正期、昭和戦前期の教科課程の特徴 戦後の新教育制度 学習指導要領改訂の概観 グループのメンバー発表 	<ol style="list-style-type: none"> 明治期、大正期、昭和戦前期の教科課程の性格について理解する。 戦後の教育制度の転換について理解する。 戦後の学習指導要領の変遷を改訂ごとにたどり、戦後の変化について理解する。 <p>① グループごとに集まり、メンバーの顔と名前を確認する。</p>
5	5/12(木) 5/17(火)	2008・9年改訂、2017・18年改訂の学習指導要領	<ol style="list-style-type: none"> 2008・9年改訂、2017・18年改訂の学習指導要領の完全実施までのプロセス 変化した内容 学習指導案フォーマット グループで担当する単元 	<ol style="list-style-type: none"> 2008・9年改訂の学習指導要領から2017・18年改訂の学習指導要領完全実施までにかかる年数を把握する。 変化した内容を理解する。 グループで作成する学習指導案について理解する。 <p>① グループの単元を決めて提出。</p> <p>持参: 自分が担当する教科の教科書</p>
6	5/19(木) 5/24(火)	教育課程と 学力問題 1年間、1単元の授業時数	<ol style="list-style-type: none"> 学習指導要領 学習指導要領改訂の背景にある学力問題 一国際学力調査 2008年改訂から2017年改訂へ標準授業時数(小・中学校)と単位数(高等学校)の変化 中学校2年生の自分の免許教科の指導計画(1年間の時間配分) グループで選んだ単元の授業時数 「本時の授業」を決める。 	<ol style="list-style-type: none"> 2017・18改訂の学習指導要領の期待されている学力問題について理解する。 授業時数や単位の変化に注目して、グループで選んだ単元の授業時数を決め、「本時の授業」を決める。 <p>① 学習指導要領の文章を読む。 ② 教科書の目次や内容を見て、1年間の授業時数の配分を決める。 ③ グループの単元の授業時数と「本時の授業」を決めて、提出。</p> <p>持参 * 教科書 * 学習指導要領(最初から総則+教科のページ) * 学習指導要領解説(グループの単元関係ページ)</p>

回	火曜MMC 木曜SHC の日付	主題	内容	ねらい(目標)・学習活動・持参するもの
7	5/26(木) 5/31(火)	教育目標と教科の目標、単元の目標	1. 教育基本法、学校教育法から教科、単元までつながっている目標 2. 1の流れで設定されている単元の目標—基本3点設定・3種類の意味 3. 1の流れで設定されている、グループで担当する単元の目標 4. 自分たちで設定する単元目標	1. 国の方針として単元までたどった時に、どのような目標が設定されているのかを見出す。各単元の目標は各クラスに応じたものを設定することになるが、一般的に設定されている目標を理解する。 2. 一般的に設定されている目標を踏まえながら、自分たちの設定する教材観、生徒観、指導観を合わせて考え、単元目標を設定する。 ① グループで確認する。 持参 *教科書 *学習指導要領(最初から総則+教科のページ) *学習指導要領解説(グループの単元関係ページ)
8	6/2(木) 6/7(火)	評価のサイクル	1. 評価の種類 2. 評価の意味 1授業の評価、1単元の評価から指導要録までのサイクル 3. PDCAサイクル 4. 評価の観点—3観点 5. グループで担当する単元の3観点の内容設定	1. 授業に関わる評価の種類、授業から指導要録までの評価のサイクルを理解する。 2. グループの単元の評価について考える。 ① 知っている評価の種類を交流する。 ② 評価についての考えを交流する。 ③ 教科、単元に即した3観点の設定をする。 持参 *教科書 *学習指導要領(最初から総則+教科のページ) *学習指導要領解説(グループの単元関係ページ) *『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
9	6/9(木) 6/14(火)	学習指導案作成に関わる基本説明	1. 学習指導案 2. 教材観、生徒観、指導観の意味 3. 単元の目標、評価の観点 4. 単元の評価規準 5. 指導と評価の計画 6. 本時の評価規準と評価基準についての考え方 7. グループの発表日と順番の発表 8. グループ発表の評価基準(鈴木作成)	1. 学習指導案を作成する意味を考える。 2. 基本的構成を把握する。 3. 発表時間、進行等の担当。 ① グループで選んだ単元について、教材観、生徒観(今回は、イメージで作る)、指導観をつくる。 ② 学習指導案の「10. 本時の評価基準」までの内容について相談する。 持参:第8回と同じ
10	6/16(木) 6/21(火)	学習指導案作成1	1. 「10.本時の評価基準」までの各項目に従って考え、作成する。	1. 内容構成について、相談しながら作成する。 持参:グループごとに必要なもの
11	6/23(木) 6/28(火)	学習指導案作成2	1. 「10.本時の評価基準」までの各項目に従って考え、作成する。 2. 授業終了時に、グループごとにWebClassに提出。	① 内容構成について、相談しながら作成する。 ② 発表分担を決める。 持参:グループごとに必要なもの
12	6/30(木) 7/5(火)	学習指導案発表1	1. 40点満点 2. 評価項目に従って採点 3. メンバー全員が発表を分担	1. メンバー全員の成果として評価する。全員で協力して作成と発表を行う。
13	7/7(木) 7/12(火)	学習指導案発表2	1. 40点満点 2. 評価項目に従って採点 3. メンバー全員が発表を分担	1. 進行方法等は、第12回と同じ。
14	7/14(木) 7/19(火)	学習指導案発表3(予備) 教科外活動の教育課程と部活動の指導	1. 40点満点 2. 評価項目に従って採点 3. メンバー全員が発表を分担 1. 教科外活動の教育課程 2. 部活動の位置づけと意義	1. 前半の時間を発表の予備とする。 ① 教育課程外の活動である部活動の意義と指導の在り方について、体験を通して意見交換する。
	7/26(火) 7/28(木)	定期試験	・40分、60点満点 ・参照不可 ・文章の空欄に単語を当てはめる。 ・単語は単語群から選ぶ。 ・出題範囲:第2回～第14回の内容	

Ⅲ 「教育課程論」第2～8回の「本時の展開」

第2回	主題	教育課程の概念と構造		
曜日・時限				講堂
時間帯				
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点
休憩時間		授業前	・広がって座る。一机に1人か2人。	・パソコンのセッティング ・画面共有資料のUP
30 5		1. 教育課程の基本概念 ・本時のねらい ・「教育課程」の原語、語源、意味 ・「教育課程」「カリキュラム」の使用範囲の違い→図示 ・顕在的・潜在のカリキュラム ・ワークシート 問1 1分(1人)+4分(グループ)	・プリントアウトした資料、あるいは画面でPPのスライドの内容を確認しつつ、必要事項をメモしながら、説明を聞く。 ・ヒドゥンカリキュラムの事例について、思い出した場面を交流する。 ・問1「教育課程」「カリキュラム」を使った文を、1文ずつ作りなさい。(1人で1分) ・近くの席の2～3人で自己紹介をする。 ・グループとして作成する。(4分)	・ヒドゥンカリキュラムの本 ・ペアか、グループになっているか、全体を回ってみる。 ・提出用のシートは1人が記入。
30 5 10		2. カリキュラムの類型 * 教科カリキュラム ・相関カリキュラム ・融合カリキュラム ・広領域カリキュラム ・コアカリキュラム * 経験カリキュラム ・ワークシート(個人用)を使って 問2 2分(1人)+3分(グループ) ・発表(1グループ)	・カリキュラムの類型について、説明を聞いて、カリキュラム類型と6種類の資料(WebClass掲載)のくみあわせをつくる。 ・ワークシート(個人用)を使って問2カリキュラムの類型と資料の組み合わせを作ろう。の回答を記入する。 ・問1と同じグループで、(提出用シート)にカリキュラム類型に該当する資料名を記入 ・グループで確認する。	・動画の資料をどうするか。予習でみているかどうか。
5		3. 免許取得希望教科(複数ある場合は教育実習に出る教科を選ぶ)	・WebClassで(免許取得希望教科)に答える。	制限時間について確認する。
5		本時についての質問		
90		授業時間100分→予定より時間がかかる場合のために10分予備とする。		

注・

「本時の展開」について

1. 「曜日・時限」「時間帯」「講堂」の項目については、記載内容を消去して資料とした。
2. 「時刻」については、5クラスそれぞれに合わせて記入して使用した。
3. 記載内容は基本的に授業前に作成したものであるが、実際に授業を行った後、時間配分や進行順番等、次回に向けて変更した記載箇所もある。
4. グループでの活動が含まれるため、時間配分をこまめに行っている。グループ活動の前に活動時間を伝え、アラーム付き時計で終了時間を知らせるようにした。

「授業の進め方」について

1. 説明用Power Pointおよび資料は、ダウンロードできる形でWebClassに掲載した。
2. 分量の多い資料はURLを紹介し、各自でダウンロードするように指示した。

第3回	主題	日本における教育課程行政		
曜日・時限				講堂
時間帯				
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点
休憩時間			・グループのくじ引きを受け取り、それぞれの位置に着席する。	・くじに氏名を書いてケースに入れるという指示を黒板に書く。 ・パソコン、zoomの準備 ・1回目欠席者に資料を渡す。 ・おまけ資料基礎データを前列に置く。
10		教員採用試験—論作文 教師像、生徒像、授業観 ↑ 教職課程の科目の集大成	・必要に応じてメモする。	・1次試験は選択肢問題も多いが ・論文文→面接で、培ってきたものが見える。 ・おまけ資料2 論作文テーマ
10		現在の 1. 教育課程行政の構造 ・国と地方の教育行政担当 ・横浜市教育委員会 (狭い意味・広い意味) ・文科省—教育委員会体—学校 資料1 ・教育課程行政—スライド3	・国と地方の教育行政担当、知っている場面?について隣と話す。	・横浜市教育委員会ネット情報 ・資料1
10		2. 教育課程の法体系 ・資料2 法体系 ・教育目的 ・小等・中等教育の教育目的 ・教育目標10点	・教育基本法「教育目的」 ・目標を読み、全員・スマホでアンケートに答える。	・資料2 ・『教職六法』 ・読む人は読んだ後でチェック ・WebClassのアンケート機能を用いる。アンケート結果を全員で共有できる。(記名部分はなし)
10		3. 教育の目的と教育課程の関係 ・領域概念	・教育課程編成・・・領域PPスライド順番に読み上げる。 ・小学校 ・中学 ・高校 ・それぞれの領域の数と変化したもの 5・4・3領域	・教育課程の科目との対応
5		4. 授業時数と教育課程の基準 ・学校教育法施行規則	・1単位時間、1単位 ・小学校、中学校、高等学校それぞれ思い出す。みんなの体験を確認。	・『教職六法』
5		5. 学習指導要領と教科書 ・スライド13	・わからないことない? 隣と話して質問する。	・『学習指導要領』
15		6. 教科書検定制度と採択のしくみ ・スライド14・15 付・スライド16 義務教育教科書無償化の経緯	・中央教育審議会について、知っている? ・答申と学習指導要領の関係は? ・教科書検定の仕組みは? ・検定済のしるしは?	・検定教科書数冊
20		アンケート分析 目標到達度自己分析の集計 おまけ資料・基礎データ	1分時間をとり、発表者複数で相談 ・発表 ・基礎データの注目点	
5		本時についての質問		
90		授業時間100分—予定より時間がかかる場合のために10分予備とする。		

第4回		主題		教育課程の歴史的変遷	
曜日・時限					講堂
時間帯					
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点	
休憩時間			① グループごとに着席	・グループごとの配置を板書、その位置に戦前の教科書 ・パソコン、zoomの準備 ・グループ表1枚	
40		歴史的視点 1. 明治期、大正期、昭和戦前期の教科課程の特徴 ・明治から敗戦までは「教科課程」 ・3つの時期の例 ・教科書—明治37年から国定教科書 文部省内の図書監修官が執筆。 ※戦後と対比で特徴を捉える。	次の質問に答える。 明治6年 ・どんな法律で学科が決まっていた？ ・学年、科目名と簡単な紹介？ 明治33年—4年間義務教育になったころ ・どんな法律で学科が決まっていた？ ・学科構成？ ・中学校、高等女学校法律と学科構成 昭和16年 ・どんな法律で教科が決まっていた？ ・教科構成？ ・中学校、高等女学校法律と学科構成？ 事例として、修身の教科書を見る。 ・学科や教科の変化 ・課程内容・法律で ・教科書・国定	前回の現在と、対比できるように、関連付けられるように	
10		2. 戦後の新教育制度 教科構成と時間数	・教科構成？ ・時間数—週何時間？		
35		3. 学習指導要領改訂の概観	・学習指導要領の変遷について他の科目でたどり着いたか？ ・反応によって、グループで担当し、説明する。		
5		今日の内容についての質問			
90		授業時間100分—予定より時間がかかる場合のために10分予備とする。			

第5回	主題	2008・9年改訂、2017・18年改訂の学習指導要領		
曜日・時限				講堂
時間帯				
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点
休憩時間		*試験第14回に実施	① グループごとに着席	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン、zoomの準備 ・グループ表1枚 ・グループ提出用紙を各グループの位置に置く ・控えの用紙を前の机に置く。
15		1. 2008・9年改訂、2017・18年改訂の学習指導要領の完全実施までのプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・2008・9年改訂の学習指導要領から2017・18年改訂の学習指導要領完全実施までにかかる年数を把握する。 ・自分の成長過程の学年と重ねて、年数を辿る。 	
20		2. 変化した内容	<ul style="list-style-type: none"> ・変化内容を理解する。 ・どの変化に注目するのか、自分の教科に関して何が変わっているのかをグループで共有する。 ・提出用紙に書き込む。 	
10		3. 学習指導案フォーマットの「単元名」の項目までの説明	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで作成する学習指導案について、「単元」の意味と、学習指導案上の意味を理解する。 	学習指導案フォーマット 利用マニュアル 先輩の記入済みサンプル
10		・教科書の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が担当する教科の教科書を見る。 ・教科書の変化を把握する。 	・中学校2年教科書
10		4. グループで担当する単元	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの単元を決める。 	
30		発表	発表。その後ワークシート提出。	
95		授業時間100分ー予定より時間がかかる場合のために5分予備とする。		

第6回	主題	教育課程と学力問題1年間, 1単元の授業時数		
曜日・時限				講堂
時間帯				
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点
休憩時間			<ul style="list-style-type: none"> * 教科書 * 学習指導要領 (最初から総則+教科のページ) * 学習指導要領解説 (グループの単元関係ページ) ・ pp. / 字数・行数 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パソコン, zoomの準備 ・ グループ表 1枚 ・ グループ提出用紙を各グループの位置に置く
20		1. 学習指導要領 ・ 2017学習指導要領	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2017・18改訂の学習指導要領の「総則」をよむ。前回の「学習指導要領の改訂のポイント」の内容と合わせてみる。 ・ 注目した内容が、学習指導要領ではどのような内容になっているのかを確認する。 	
20		2. 学習指導要領改訂の背景にある学力問題 —国際学力調査—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2018のPISA調査報告を辿り、これまでの成績の推移、学習指導要領改訂のポイントとの関係を見出す。 	国際調査
20		3. 2017年改訂での標準授業時数 (小・中学校) と単位数 (高等学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時数、単位という概念を理解し、使えるようにする。1年間の授業時数を把握する。 	
15		4. 中学校2年生の自分の免許教科の1年間の指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとの時間配分をする。 	
5		5. グループで選んだ単元の授業時数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ単元の授業時数を決める。 ・ 前回のワークシートに追記 	
10		6. 「本時の授業」を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元の中で「本時」を決める。 ・ 前回のワークシート裏に追記 	
90		授業時間100分—予定より時間がかかる場合のために10分予備とする		

第7回	主題	教育目標と教科の目標、単元の目標		
曜日・時限				講堂
時間帯				
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点
休憩時間				<ul style="list-style-type: none"> ・パソコン準備 ・グループ表1枚 ・グループ提出用用紙を各グループの位置に置く。 ・個人用用紙を最前列に置く。
30		1. 教育目標に関する基本的な説明 ・第1回配布資料の学習指導案フォーマットサンプルに沿った、本日の作業の位置づけ確認	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに着席して説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PPスライド使用 ・第1回資料も表示する
50		2. 教育基本法、学校教育法から教科、単元までつながっている目標 ・単元の目標—基本3点設定・3種類の意味	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領、学習指導要領解説を読み、当該教科の単元までたどった時に、どのような目標が設定されているのかを見出す。 ・グループ作業として、ワークシート 1. を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領 ・学習指導要領解説教科ごと
50		3. 教材観、生徒観、指導観 ・第1回配付の「学習指導案フォーマットサンプル利用マニュアル」にもとづく基本的説明	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、3点について話し合い、ワークシートにメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回配付資料 ・生徒観のクラスの特徴とは想像で作成
50		4. グループで担当する単元の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に設定されている目標を踏まえながら、自分たちの設定する教材観、生徒観、指導観を合わせて考え、単元目標を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1.2を合わせながら、自分たちで設定する。
10		5. 指導計画の時間配分 ・前回の修正について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科ごとに教科教育法の先生方からの情報をもとに設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容に入る前の新教科書の特徴についての説明を読んで割り振りの参考にする。
90		授業時間100分—予定より時間がかかる場合のために10分予備とする		

第8回	主題	評価のサイクル		
曜日・時限				講堂
時間帯				
時間	時刻	指導内容	学生の活動	指導上の留意点
休憩時間			持参 * 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 * 学習指導案フォーマットサンプル	・ パソコン準備 ・ グループ表1枚 ・ グループ提出用紙と前回までの用紙をまとめて、クリップで止めて各グループの位置に置く。
30		1. 評価の種類 2. 評価の意味 1 授業の評価、1単元の評価から指導要録までのサイクル 3. PDCAサイクル	・ PPスライドの説明を聞き、評価のサイクルを理解する。 ・ 指導要録を見て、構成や評価のサイクルについて理解する。作成する側から捉える。 ・ カリキュラムマネジメントの内容を考える。	・ PPスライド ・ 資料データ
30		4. 評価の観点－3観点 単元の目標との対応	・ 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』 pp. 9-10で、観点的意味と評価方法について確認する。 ・ 単元の目標と単元の評価規準の関係を具体例を見て把握する。pp. 28-	・ 観点についての考え方と例をイメージしやすいように丁寧にたどる。 ・ 目標－未来のこと ・ 評価－現在の姿
30		5. グループで選んだ単元の目標と3観点の内容設定	・ 前回考えた単元の目標と今回の資料をみながら、グループで話し合い、単元の目標と評価規準を決める。	・ 机間指導をする。
90		授業時間100分－予定より時間がかかる場合のために10分予備とする。		

第9回は、「学習指導案フォーマットサンプル」と「学習指導案フォーマットサンプル利用マニュアル」を使用して、第10・11回の作業の具体的な内容について説明する。グループ活動で作成してきたワークシートも活用し、これまでの作業と学習指導案のつながりを把握する回でもある。

まとめにかえて

「教育課程論」の内容構成についてみると、「コア・カリキュラム」の項目の内容を網羅して、教育課程に関する基本的な概念と教育課程の類型、日本の教育課程行政、明治期から現在に至るまでの教育課程の変遷、戦後の学習指導要領の変遷、学生が学んできた学習指導要領と最新の学習指導要領の特徴、評価方法、学力問題に対する理解等を講義として展開しながら学習指導案作成の伏線をつくり、学習指導案作成作業、発表、評価という流れを構成している。それぞれの内容が「はじめに」で挙げた各科目と重なるところがあり、しかも「教育課程論」としては欠かせない内容となっている。

「教育課程論」の授業について以前から継続的に分刻みの授業プランを作成してきたわけではない。講義とグループ活動の時間を区分する、あるいは、グループでちょっと話し合う程度の授業を展開してきた。だが、アクティブラーニングを取り入れようとすると込み入った時間配分になり、これまでの簡単な時間配分では対応しきれない。「教育課程論」で作成する学習指導案の「本時の展開」の大学バージョンを作ればいいのかと考えるようになり、2022年度に初めて授業準備の一環として、「本時の展開」の形式で授業展開のプラン作りを試みた。これによって授業内容を一つの見取図として他者と共有する術を見出だすことができたのではないかと思う。

大学の授業者は学習指導案の書式に馴染んでいないだろうが、アクティブラーニングのような学生の活動を重視する授業構成の場合は「指導内容」「学生の活動」を別の欄に記述する学習指導案の書式が役に立つ。「指導上の留意点」は、先の2項には当てはあてはまらないが、授業進行上必要なプリント、教具、授業者の行動等を書き込んでおく。教材研究の時間を少し授業構成の方に使うと考えれば、負担感も少ない。

神奈川大学の教職課程では、共通シラバスで把握できるレベルの内容のみが共有されている。同一科目を複数コマ開講しており、複数の担当者が授業を行うため、共通シラバスを設定して、この内容をそれぞれの教員が授業する方法をとっている。担当者それぞれの専門性もあり、取り扱う項目の濃淡は担当者に任されている。一つの科目についての授業者シラバスと「本時の展開」を共有する試みがさらに複数の科目に広がると、再検討できる事柄も多い。科目間の関係がより有機的なつながりを持つこともできるだろう。「教職の基礎的理解に関する科目等」の全科目が揃い、複数の大学の教職課程での検討が進むと、「教職の基礎的理解に関する科目等」の科目構成や、文科省が提示している「コア・カリキュラム」の再検討にも及ぶ力を持つ基礎作業になるのではないかと考える。本稿はその第一歩の試みである。